ロタウイルス感染症予防接種について

この予防接種は、予防接種法に基づき、乳児期にロタウイルス感染症の免疫を得るために実施するものです。必ず、本紙をよく読んでから、委託医療機関で接種を受けてください。

接種時の持ち物

☆母子健康手帳　☆予防接種予診票兼受診票　・マイナンバーカード　・子育て支援医療費受給者証(資格確認書など)

どちらか１つのワクチンで接種を受けます。
受けるワクチンの種類により接種回数、受けることのできる月齢が異なりますので、ご注意ください。

ワクチンの種類	ロタテック（５価）	ロタリックス（１価）
定期接種対象者	令和２年８月１日以降に生まれた人で、出生６週０日後から３２週０日後までの間にある人	令和２年８月１日以降に生まれた人で、出生６週０日後から２４週０日後までの間にある人
	※ただし、次に該当する人は定期接種の対象となりませんのでご注意ください。 ・腸重積症の既往歴のあることが明らかな人 ・先天性消化管障害を有する人（その治療が完了した人を除く） ・重症複合免疫不全症の所見が認められる人	
接種回数	２７日以上の間隔をおいて　**3回**	２７日以上の間隔をおいて　**2回**
標準的な接種期間	初回接種は生後２月に至った日から出生１４週６日後まで	
注意点	・原則としてロタテック又はロタリックスのいずれか同一の製剤で接種を完了してください。同一製剤での接種ができない場合は、子育て支援課までご相談ください。 ・吐き出した場合でも、再投与の必要はありません。 ・予診票は３枚送付していますが、ロタリックスで接種をされた場合、２回で接種が完了し、予診票は２枚しか使用しません。	

病気の概要

ロタウイルスによる胃腸炎は、急激な嘔吐と水様性の下痢便を頻回に排泄し、発熱が３～５割程度にみられます。ロタウイルス感染症により世界では５歳未満の小児が年間約５０万人死亡しているとされ、その８０％以上が発展途上国で発生しています。先進国では、死亡例は少ないですが、嘔吐・下痢に伴う脱水やけいれん、腎不全、脳症などの合併のため入院治療に至るケースがあります。重症急性胃腸炎で入院する原因としてロタウイルスが最も多いといわれています。

ワクチンの概要

ワクチンには、ロタテックとロタリックスの２種類のワクチンがあり、どちらも飲むタイプの生ワクチンです。いずれのワクチンも、ロタウイルスに対する予防効果が示唆されています。他のウイルスに起因する胃腸炎を予防することはできません。先進国・発展途上国を問わずワクチンを導入した国・地域では、ロタウイルス感染症は劇的に減少しています。さらに、直接的効果だけでなく、集団免疫効果も認められています。

副 反 応

予防接種は、重篤な病気の発生や流行の阻止に大きな成果をあげていますが、ごくまれに副反応をおこすことがあります。主な副反応は、下記のとおりです。

◎腸重積症状：接種後、特に初回接種の１～２週間に、腸重積症状（突然はげしく泣く、ぐったりする、顔色が悪い、繰り返し起きる嘔吐、機嫌が良かったり不機嫌になったりを繰り返す、血便、お腹の張り）がみられた場合は、速やかに診察を受けるようにしてください。

◎過敏症：接種直後から翌日に発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒、発熱等があらわれることがあります。

◎全身症状：発熱・発疹が見られることがあります。一過性で通常数日中に消失するとされています。

◎局所症状：発赤、腫脹、硬結等があらわれることがあります。

まれに生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(呼吸困難、血管浮腫など)、急性血小板減少性紫斑病などがあります。定期の予防接種の副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

注 意 点

（１） 哺乳後は、嘔吐をする可能性があるために接種後３０分程の間隔を開けてから授乳することをお勧めします。また哺乳は、接種を受ける１～２時間前までに済ませてください。少し空腹感のある方がワクチンの接種を受けやすいと考えられます。

（２） 予防接種は健康な人が元気な時に接種を受け、その病原体の感染を予防するものです。体調の良い時に受けることが原則です。お子さんの体調をよく理解した保護者がお連れください。

（３）予防接種を受けることができない人

① 明らかに発熱（通常３７．５度以上）している人
② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
③ 予防接種等により過敏症やひどいアレルギー反応を起こしたことのある人
④ 定期接種対象者から除外される人（裏面参照）
⑤ その他、医師が不適当な状態と判断した場合

（４）予防接種を受けるに際し、主治医とよく相談しなくてはならない人

① 心臓病・腎臓病・肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
② 免疫不全があると指摘されたことがある、及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
③ 感染症を繰り返しているなどの免疫不全の可能性がある場合や、免疫抑制剤やステロイドを来す治療を受けている場合
④ 出生してから現在までの医療機関の受診や入院を必要とした場合
⑤ 母親が妊娠中や授乳中に免疫機能を抑制する薬の投与を受けた場合
⑥ 過去の予防接種２日以内に発熱・発疹等のアレルギーを思わせる異常がみられた人
⑦ 過去にけいれんをおこしたことがある人
⑧ ワクチンの成分に対して、アレルギーをおこすおそれのある人
⑨ 活動性胃腸疾患や下痢等の胃腸障害のある人

（５）予防接種を受けた後の注意事項

① 接種後３０分は安静にして医師と速やかに連絡をとれるようにしておいてください。
② 接種当日はいつもどおりの生活をしてもかまいませんが、激しい活動は避けましょう。
③ 健康状態や体調の変化に注意してください。
④ 接種後１週間程度は便中にウイルスが排出されます。おむつの交換後などワクチン接種を受けた人と接した際は手洗いをするなど注意してください。

＜問い合わせ先＞子育て支援課　０７７４－６４－１３７７(直通)

